

まんさく

第 295 号

発行
特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電



西和賀町チャリティーショーに介護おとぼけ座が登場♪ 《12月3日》

小中高生に介護の魅力を伝えるため結成された介護劇団が、銀河ホール of の舞台に！ [関連：4頁]

295号もくじ

- ☆2～3頁★ * 上半期検証と下半期目標 (生活課、介護・湯の町地区)
- ☆4頁★ * 光寿苑報恩講参拝&御齋 * 身体拘束を考える研修 * 介護おとぼけ座in西和賀高校
- ☆5頁★ * 想…災害を捉える
- ☆6頁★ * 地域密着型事業紹介 * 寄附・寄贈・訪問等紹介
- ☆7頁★ * 「共生の場」へようこそ！ * 社会福祉永年勤続表彰 等
- ☆8頁★ * 「光寿苑の日々」(4コマ漫画) * 「自然法爾」(おきさんのお話) * 「おわりに」

光寿会ホームページは『光寿会 にしわが』で素早く検索できます(^_^)♪



イラスト：1000

コロナ禍と施設入居が重なり5年ぶりとなったお二人の再会。喜んでいた後の「あの世で会いまし！」の言葉は、ジョーク半分、真理半分と言えりや90代ばちちゃんたちの世界観を創っていく。年を重ねて、この世界観めっちゃイロイロ

善信は「大自然の懐きに抱かれて生きてきたのか。それはよいことであった。」

『法然小説 流人親鸞』

第94回 丸田善明

自然法爾「じねんほうに」

日本浄土教の開祖・法然上人は、承元元年(1207)早春、念仏禁止令によって上佐国へ流罪。10ヶ月に流罪は解かれたが、京に入る事か出来たのは4年半後、建暦元年12月20日の事である。

その日、院の御所の用意した「大谷の禅房」で法然を待っていた天台座主・慈円僧正は、間もなく80歳になる老僧を玄關で迎え、手を執って禅房の仏間に請じ、下座で九拜の礼を執、こう述べた。

「法然どの、貴僧の命運を引き回したのは、僕の謀りごとであった。許して下され。」

踏んだのイヤギ。」「

やがて、年明けた1月25日、法然は遷化した。亡くなる10日ほど前、越後の国主代理だった文章博士・日野有範卿が見舞いに訪れた。

「法然さま、私は善信(彼の親鸞)の伯父でござる。善信は今、越後の一丈も降り積もる豪雪の郷に閉じ込められ、師と会うことが通わぬ苦しみの中におります。」

この時、法然の語ったのが冒頭の言葉。

おわりに

今日12月15日、まんさくメロに追われている。他にも仕事がいっぱいで、大変、心に余裕がないのだが、去年の月日は違う状況で余裕が皆無に等しかった。そう。施設内コロナクラスターにより、いつもの日常に戻って来るのか？まだ不確かな中、不安と疲れが極限だった頃である。一年が経つ。急場を凌いでいる時は、普通の日常を切望して止まなか。た曲に、普通の日常をしばらく過すと、今度は、何か笑える楽しい事ないかと、欲張りな心が顔を出す。『おわりに』を書く時間があった。良かった。ここに向き合いつつ、我が実相を認知し向き合う時。『良きも悪きも、私の心が決めている。』

光寿会では介護士・看護師・調理師等職員大募集(^_^)♪ 0197-84-2526

『共生の場』へようこそ♪

【光寿苑の新しいお仲間ご紹介させていただきます】



近藤照子さん
*西和賀町
*昭和のお生まれ



高橋タマさん
*西和賀町
*昭和のお生まれ



真田ツマさん
*西和賀町
*昭和のお生まれ

社会福祉永年勤続表彰者

光寿会を初め、西和賀地域の介護現場を永らく支え続けてくれている高橋ゆきえさんと北島真理さんのお二人が、この度、授与されました。

経歴は『〇〇年(うんじゅうねん)』とシークレットにさせていただきますが、お年寄りのためになるよう、職員たちの気持ちや技術、知恵を与えてくれた功績に拍手をお願い致します♪

【お二人は表彰式に不参列でしたので、ここで賛辞を贈りました♪】



管理栄養士・調理員

管理栄養士資格、調理師有資格者も無い方も歓迎！

生活相談員・介護支援専門員

社会福祉士または社会福祉主事、介護支援専門員資格

介護職員・事務職員

有資格の方も、無資格でも歓迎！ 事務職経験のある方、大歓迎！

職員募集中

令和5年度法人キーワードは『活かす』～変更箇所：「丸ゴシック体」～

【生活】「①生活・ケアマネ部門」 ☆細川るみ子☆

法人キーワード	令和5年度共通のキーワードは『活かす』	
令和5年度上半期のイメージ像	テーマ 生活を回復する。 目標 ① ★生活歴情報を実際のケアに繋げる。 ★コロナクラスターの経験を活かした対応ができる。 ①感染対策を取りながら、お年寄りのゆかりの場所や友人に会いに行けるようにしていく。 ②ご家族が居室や苑内に入られた際、生活を感じられるようにしていく。 ⇒感染対策をとった中で、居室での面会ができる。 ③お年寄りの機能低下防止や、離床をして交流の機会が増えるようはたらきかける。	目標 ② ★生活課職員・組織が、円滑に運営されるように橋渡し役になる。 ①新人職員育成のためのフォローアップ ②各部署の職員に積極的に話を聴いていく。

令和5年度上半期検証【テーマ】	少しずつ回復して来ているが、お年寄り・家族の希望される状態までにはできていない。
令和5年度上半期検証【各目標】	目標① ※市内の感染状況を確認しながら、外出の対応をする事ができた。 ※もう少し山菜採りの計画を立てるなど、外へ出る機会を増やしたかった。 ※居室での面会が難しい中、施設内に入った事が無い家族対象に、生活スペースを覗いて頂く事を進めている。 ※介護技術向上委員会が中心となり、個々に合った離床方法を検討し、周知する事ができた。 目標② ※積極的に話を聴く事ができなかった。 ※各部署の現状をより知るために話を聴き、連携できる流れを作っていきたい。

令和5年度下半期のイメージ像	テーマ 生活を回復する。 目標 ① ★生活歴情報を実際のケアに繋げる。 ★コロナクラスターの経験を活かした対応ができる。 ①感染対策を取りながら、お年寄りのゆかりの場所や友人に会いに行けるようにしていく。 ②ご家族が居室や苑内に入られた際、生活を感じられるようにしていく。 ⇒感染対策をとった中で、居室での面会ができる。 ③お年寄りの機能低下防止や、離床をして交流の機会が増えるようはたらきかける。	目標 ② ★生活課職員・組織が、円滑に運営されるように橋渡し役になる。 ①新人職員育成のためのフォローアップ ②各部署の職員に積極的に話を聴いていく。 ③ケアを検討する際には、各専門職に意見を求めて、多職種で考えて行けるように働きかける。
----------------	--	---

想... 災害を捉える 宮城県から発信します③

『災害を縁に歩み出した寺』 白木澤 琴 氏

3回目となります宮城県の僧侶・白木澤琴さんよりご執筆を頂きました。今回は、琴さんのお寺の源流に根づく歴史、その続きをご覧ください。



『災害を縁に歩み出した寺』

前回ご紹介した慶念坊が、お念仏の教えを布教された宮城県北部、慶念坊の死後、信徒たちも建てたといわれている大柳説教所に、明治26年、一人の青年がやってきた。白木澤大淵、28歳。後に玉蓮寺初代となる僧侶です。

大淵は、1866年、現在の岩手県大船渡市三陸町吉浜にある真稱寺に次男として誕生しました。境内の目下には、美しい海が広がる寺です。

布教の志が篤い、大淵は、先達の勧めもあり、大柳説教所に赴任。振った小屋同然の茅屋に落胆したといいますが、強い決意を以て布教生活が始まりました。翌年には、正式に「玉蓮寺」となりました。

しかし、その矢先、明治29年、未曾有の三陸大海嘯が東北沿岸を襲います。東日本大震災にも匹敵する巨大な津波。約二万人の死者。玉蓮寺と大淵の家は、その被害を免れましたが、故郷の三陸の地は、一帯がすさまじい惨状となり

果てます。親戚の中には全員溺死となり、誰一人のご遺体も見つからなかった家もありました。大淵は故郷への慰問に赴き、海岸にて追悼の読経、慰問談話を行ったとの記録が残っています。

その時の大淵の苦悩は想像に及ばせんや、絶望、無力感、そして、何とかしなければならぬという強い責任感に苛まれたのではないのでしょうか。



豊かな自然に囲まれる現在の「玉蓮寺本堂」

三陸大海嘯の直後から、大柳説教所への本堂建立の機運がいよいよ高まりました。宮城の信徒、故郷三陸の人々の協力も得ながら、気仙大工の手によって建設が始まりました。資材の多くは、この三陸の地から寄進された海路で運ばれたといわれています。

災害により、多くの方が悲しみに暮れ、生活に困窮する中、何か大きな願いを、本堂建立に託してくださいましたのでしよう。

明治39年、遂に本堂は落成。感謝してもしきれない恩恵を、初代は私たち子孫にこう書き残しています。

「寺に衣食するもの後世子孫、恩恵を深く謝し一衣一食、皆是先祖の賜ものと思ひ、門徒の教導を怠らず、寺族一致して報恩感謝の思いに住すべきことを忘るゝことなく、而して当寺を永遠に維持せんことを念願して止まざる処なり」

後、大淵は本堂移転、戦争、地震災害など幾多の苦難に直面しながらも、仏様の教えを聞く「場」を開き続けました。岩手気仙地方の開法を大切に生きてこられた人々の風土が、苦悩の中でも「開法の場」を開き続ける後押しになったと思うのです。

大淵は生涯、布教と自らの求道に尽力。39歳で浄土に帰られたのです。

続

光寿苑報恩講参拝&御齋 11月27日



職員特製御齋『精進料理』

11月28日 介護おとぼけ座in西和賀高校

若い世代に『福祉・介護の仕事の魅力を伝えたい』というテーマをもって、実話に基づいたお笑い寸劇を手掛けて4年目。今年度も看取り場面の劇などを引っ提げて、沢内小学校高学年・湯田小学校4年生、そして西和賀高校1年生の前で、思いを伝えて参りました。〔関連記事：1頁〕

【R5年度メンバー：グループホーム笹の木、ワークステーション湯田沢内、西和賀町社会福祉協議会、特養ぶなの園、特養光寿苑&小規模多機能ホームひなたぼっこ、西和賀町役場健康福祉課 総勢16名】



身体拘束を考える研修② 11月27~28日



今年度2回目の身体拘束を考える研修会は、介護現場での悪いケアの例を視聴し、その後、グループ毎にテーマ別にディスカッションする形式で開催。テーマは、「離床介助」「ロビーにて」「余暇時間」「食事介助」「移動」と分かれており、其々の問題点と対応策を重点的にディスカッションできた事で、より深い研修となった。

普段の自分を見つめる良き機会にもなった。